刀　銘　奥大和守平朝臣元平

【所　在　地】鹿児島市城山町７－２　県歴史資料センター黎明館
【種　　別】県指定有形文化財（工芸品）
【指定年月日】昭和 53 年３月８日

法量　長さ 69.3cm，反り 2.1cm
形状　鎬造り，庵棟，反りやや高く中鋒。
鍛え　板目肌流れて柾がかる。
刃文　中直刃で，沸よくつく。
帽子　湾れ込んで大丸。
茎　　生ぶで，先は剣形，鑢目は筋違，目釘孔２個（他に鉛で埋めたもの１個），銘は太刀銘に切る。

元平は，城下の刀工奥元直の長子として延享元（1744）年に生まれ，通称を孝左右衛門と言う。一族みな刀工で，弟の元武，元安もまた刀工で兄弟３人の合作したものも残っている。寛政元（1789）年に大和守を受領し，文政 9 年に没した。この刀は，寛政 10（1798）年の春に作られたものである。元平の打つ刀は，一般に身幅が広く，堂々とした姿のものが多く，刃文は互の目乱れを得意としているが，この刀のように直刃調のものは割合に少ない。元平は，薩摩新々刀期を代表する刀工の一人で，遠く会津の角元興や尾張の青木元長などの入門者があった。